

富山県
神社庁報

かわら版

平成二十二年八月二十八日発行
発行所 富山県神社庁
編集 教化委員会広報部会



天手長男神社・正式参拝（吉岐）



和多都美神社（対馬）

神社庁旅行「神道発祥の地 吉岐」「日本文化のルーツ 対馬」

「神道発祥の地吉岐・・・」という魅力的な表現に引き付けられ、富山県神社庁主催の研修旅行に参加。（これまで神社庁の研修旅行に参加したことは無かったけれども、七月十四・十五・十六日頃は比較的祭礼の少ない時期であり、このような機会でもなければ吉岐・対馬などには行けないだろうと考え、思い切って申込み。）

（初日、対馬行きは飛行機は、梅雨前線の通過に伴う天候不良のため引き返すこともあるという条件付きで博多空港を離陸。何とか対馬空港に着陸。）

対馬に到着後、先ず、対馬防衛協会事務局長の小松氏から、「辺境の地」対馬の地理的特徴に基づく歴史や文化について説明を聞く。翌日、バスで見学予定の名所旧跡を回る。西海岸から見えるはずの韓国は、霧のため残念ながら見えず。元寇の役古戦場に建つ小茂田浜神社はひっそりと静まり返っていた。

対馬は海上に突き出た高い山のような形状で、大陸から見ると二頭の馬が並んでいるように見え、対馬と呼ばれた。地質は岩石が主体で、土木工事が難しく道路幅は狭く、

田畑も少ないらしい。現在は漁業、特に真珠養殖が盛んで伊勢志摩へ出荷している、とか。観光客は韓国人が多く、日本人は少ない、とバスガイドは嘆く。

二日目の午後三時過ぎに高速艇で吉岐へ移動。到着後夕食を済ませて住吉神社に参拝。宮司さんたちが舞う夜神楽の奉納に陪席。吉岐では祭礼に神楽は不可欠で、どの宮司さんも神楽を舞う、とのこと。

三日目は吉岐の名所旧跡を回る。正式参拝をした天手長男神社も、「神道発祥の地」を謳う月読神社も、延喜式内社ではあるが、驚くほど簡素な社殿。実は元寇の役で破壊され、荒廃した後に元の鎮座地を探し求めて再建された、との経緯を聞くに及び、辺境の地という現実が思いやられる。

魏志倭人伝に出てくる「一支国」（いきこく）の王都と推定される場所が発掘され、原の辻遺跡として一部復元されている。隣接して今春完成したばかりの博物館兼埋蔵文化財センターを見学。その後、フェリーで唐津に向かい、博多から飛行機で帰途に。（延喜式内社は九州全体で百七社あるが、その内吉岐二十四社対馬二十九社と、両島で九州の半分を占めており、吉岐・対馬は当時の日本において、大陸との交流の経由地として、繁栄していたということが再確認できる旅だった。）

広上神社 多田省吾記



住吉神社（吉岐神楽）



椎根の石屋根（対馬）

第十二回「浦安の舞講習会」

庁教化委 研修部会

去る平成二十二年八月三日から六日迄、恒例の「浦安の舞講習会」を日枝神社参集殿に於いて、開催いたしました。初級者講習は三日・四日の二日間、篠原俊栄・河合寿美子両先生にご指導を頂き、小学生から神職を含め十名が受講しました。指導者講習は四日から六日の三日間、神社音楽協会講師の先崎径子先生をお迎えし、神職・現役巫女等十三名が受講しました。最終日午後には成果発表会、引き続き、ご神前にて奉納をいたしました。

炭谷淳記



第三十三回 お宮さんを描く写生大会開催 庁教化委 青少年対策部会

県内神社二十六社で描かれた幼児・小学生・中学生の作品が、本年は四一三点の応募があり、神社庁において野口隆先生・堀敏治先生の厳正な審査により、特別賞・金賞・銀賞・銅賞等の各賞が決定いたしました。作品は、自遊館、大和富山店、大和高岡店に展示され、二十二日に表彰式が開催されました。

今回は、全体的に質の高い作品が多かったと講評をいただきました。

平尾智胤 記



富山県神社総代会長賞
朝日丘小学校2年 竹岸凌



神社本庁統理賞
新庄小学校3年 船木義忠



富山新聞社賞
北部中学校2年 大門晃久



富山県神社庁長賞
伏木小学校3年 石崎侑

北陸地区女子神職研修会

去る平成二十二年六月十六日(水)〜十七日(木)第十二回北陸地区女子神職研修会が開催されました。

一日目は、石川県和倉温泉「あえの風」を会場に、和泉流狂言十世三宅藤九郎先生より「狂言を学ぶmind,body,spirit」と題してご講義頂きました。

二日目は、久麻加夫都阿良加志比古神社へ正式参拝。お祭り資料館・伝承館等を見学の後、なぎさドライブウェイを経由して金沢駅にて解散しました。

古くから伝わる伝統芸能と地域に残る祭事に触れる事の出来た二日間でした。

横越智子 記



第二十六回 庭燎の集い

庁教化委 青少年対策部会

青少年の健全育成をめざし開催されている庭燎の集いも二十六回を数えるに至りました。本年は、八月二十日(金)に射水市の大門神社(宮司杉岡多計麿)にて幼児・小学生二十五名が集まり開催されました。

先ず、あんどん作り、ビデオ『学の夏休み』上映、火きり体験、社殿にて奉告祭、雅楽鑑賞を行い、最後は子供たちお楽しみゲームを開始。時間いっぱい子供達は、神社の境内で楽しく過ごしたようでした。

平尾智胤 記



「雅楽研修会」開催

富山県神社庁雅楽部 部長 藤井秀嗣

去る七月二十一日・二十二日に恒例の雅楽研修会を開催しました。今年も宮内庁式部職楽部元首席楽長 上明彦先生をはじめ、横浜雅楽会講師 副島昌俊先生、明治神宮代々木雅楽会楽長 柴田直宏先生をお招きし、ご教授いただきました。『黄鐘調』の「音取」「越殿楽」「千秋楽」を新に習い、『吉越調』の「音取」「酒胡子」「胡飲酒破」「蘭陵王」を復習しました。このほか舞楽に必要な『太食調』の「長慶子」や「沙陀調音取」「小乱声」なども教えていただき、あわせて「蘭陵王」の舞も半分まで習うことができました。

また、「明治神宮代々木雅楽会」との「雅楽交歓会」も三回目を迎え、本年は三名の会員の方々にご参加いただきました。練習や意見交換を活発に行い、充実した有意義な研修会となりました。



庁教化委 神宮奉賛部会

「雅(みやび)音楽祭」開催

日時：九月四日(土)午前十時〜午後七時
場所：総曲輪グラウンドプラザ
内容：雅楽演奏・遷宮パネル展
神宮解説・装束雅楽体験
火きり体験(火きり早つけ大会)
遷宮記念販売コーナー等予定

来る九月四日、第六十二回伊勢神宮式年遷宮奉祝「雅音楽祭」悠久の調べにのせて」が開催され、雅楽部として出演することになっております。今年も四回演奏することになっており、毎回違う曲目を演奏する予定です。研修会の成果が充分に発揮できるよう、部員一同練習を重ねておりますので、是非、お越しいただき、ご声援賜りますようお願い申し上げます。